

浮世絵

国芳から芳年へ

2012年 3月3日(土) ~ 4月1日(日)



月岡芳年「風俗三十三相」より「おいなさう」 嘉永年間「おいらんの傳守俗」明治21年(1888) 木版

美術館で待ってるよ

- ❖ 休館日 月曜日
- ❖ 開場時間 火～金 10時～17時(入場は16時30分まで)
土・日・祝日 10時～17時30分(入場は17時まで)
- ❖ 観覧料 一般 600(500)円 大学・高校生と65歳以上 300(200)円
※()内は20名以上の団体料金
※3月3日(土・展覧会初日)は入場無料 ※中学生以下無料
※身体障がい者手帳または愛の手帳等をご持参の方と付き添いの方
1名は半額



町田市立国際版画美術館

〒194-0013 東京都町田市原町田4-28-1 Tel.042-726-2771・0860
小田急線・JR横浜線町田駅より徒歩15分 <http://hanga-museum.jp/>



浮世絵

国芳から芳年へ



歌川国芳「小倉擬百人一首」より「陽成院」
大保末～嘉永5年(1843～1853) 木版
町田市立国際版画美術館寄託



月岡芳年「和漢百物語」より「田原藤太秀郷」
慶応元年(1865) 木版

幕末に活躍した歌川国芳(1797～1861)は、「武者絵の国芳」として名高く、洋風の説話画や美人画など、さまざまなジャンルに筆をふるいました。近年はその斬新な発想ゆえに「奇想の絵師」としても注目をあつめ、いまなお私たちを魅了します。

人情に厚い江戸っ子だった国芳にはたくさんの弟子がいました。そのひとり月岡芳年(1839～92)は、デビュー当時には国芳の作風をよく学んだ浮世絵を描いていました。明治期になると師匠の作品には見られない繊細な筆づかいに個性を発揮、美人画や日本古来の説話画を多く生み出し、明治期の浮世絵界の第一線をつねに走りつづけました。芳年は明治という新しい時代よりも江戸の昔を懐かしんだ人だったため、洗練されたその作品にはどこか江戸の面影が漂っています。

本展では、国芳から芳年へと受け継がれた、幕末明治期の浮世絵約120点をご紹介します。高度な技術によって生み出された浮世絵の多彩さ、美しさをご堪能ください。

◎関連催事

☆ギャラリー・トーク…いずれも午後2時～ 40分程度
※観覧券が必要です。企画展示室入口にお集まりください。
①館長村田哲朗によるスペシャル・トーク…3月11日(日)
②学芸員によるギャラリー・トーク…3月4日、18日、4月1日(いずれも日曜)

☆体験イベント「芳年を摺ろう」

3月10日(土) 午後1時30分～4時 お1人の所要時間は約5分
月岡芳年「和漢百物語」のうち「宮本無三四」をもとに復刻した版木(単色)をばれんを使って和紙に摺ってみましょう。
会場:1F エントランスホール
申込不要・先着30名 当日12時より整理券を配布します。
*子どもから大人まで参加できます。

☆公開制作「木版画 伝統的技術と現代の版表現」

版画家 鹿鳴裕一
3月24日(土) 午前11時～午後4時30分(午後12時30分から1時30分は閉室)
伝統的な木版の技法と現代版画の表現が、どのように結びついているのかを、彫りや摺りなどを中心に紹介します。
会場:1F アトリエ
*どなたでも自由に見学できますが、混雑時は入場を制限することがあります。

※体験イベント、公開制作は無料。未就学児および低学年児童は保護者の同伴が必要です。
お問い合わせ:Tel.042-726-2889(普及係)

☆美術館で語りあおう～トークフリーデー
展覧会初日を除く水・土曜
「鑑賞のための静けさ」よりも作品をめぐる会話を楽しんでいただくという試みです。
小さなお子さま連れの方も気兼ねせずにご入場ください。



歌川国芳「唐土二十四孝」より「大御」
嘉永(1848～52)期 木版



月岡芳年「月百姿」より「玉兔 孫悟空」
明治22年(1889) 木版



月岡芳年「魁題百撰相」より「森蘭丸」
明治元年(1868) 木版

同時開催
ミニ企画(入場無料) 2012年1月5日(木)～4月1日(日)
シリーズ(現代の作家) 田中陽子



町田市立国際版画美術館
〒194-0013 東京都町田市原町4-28-1
Tel.042-726-2771・0860 http://hanga-museum.jp